

令和7年度半田市こども未来ミーティング 実施報告

- 1 日時 令和8年2月14日(土) 14時から16時
- 2 場所 半田市役所 4階 大会議室
- 3 参加者 7人(大学生)
- 4 内容

第1部

講演：『こども・若者の声で未来をつくる～社会の動向と実例を知る～』

講師：日本福祉大学 社会福祉学部教授 末盛 慶 氏



第2部 「未来を描こう」

トークセッション：テーマ『半田市で暮らす未来を語ろう』

トーク1：半田市での生活の魅力と、未来につながる可能性を整理しよう。

トーク2：半田市で「暮らしたい未来」をデザインしよう。

ファシリテーター：日本福祉大学 社会福祉学部教授 末盛 慶 氏



【各グループの意見】

Aグループ

出た意見を、「公園」「ライフライン」「観光」「住むときにほしいもの」「鉄道」のジャンルに分けてまとめた。

主な内容としては、

●良い点

- ・ 広くて大きい公園がある
- ・ ICT教育が強い
- ・ 観光地が多い
- ・ 南吉、山車、運河、赤レンガ、知多牛といった魅力がある
- ・ 山車や祭り等の伝統がある

●課題点

- ・ イベント等発信が不足している
- ・ 大型ショッピングモールがない
- ・ バasketゴールのある場所やスケートボードができる場所があるとよい
- ・ レンタサイクルの発展や歩道の整備が行き届くとよい
- ・ 知多半田駅周辺が物足りない、暗い

という意見があがった。

Bグループ

「魅力発信のまち」と題し、半田市の魅力にはどのようなものがあるかピックアップした。

主な内容としては、

ミツカンや新美南吉、有名なお酒等半田市の魅力は可能性を秘めている。いかにその魅力を発信していくかが重要である。

Aグループとも共通する意見も多くみられた。

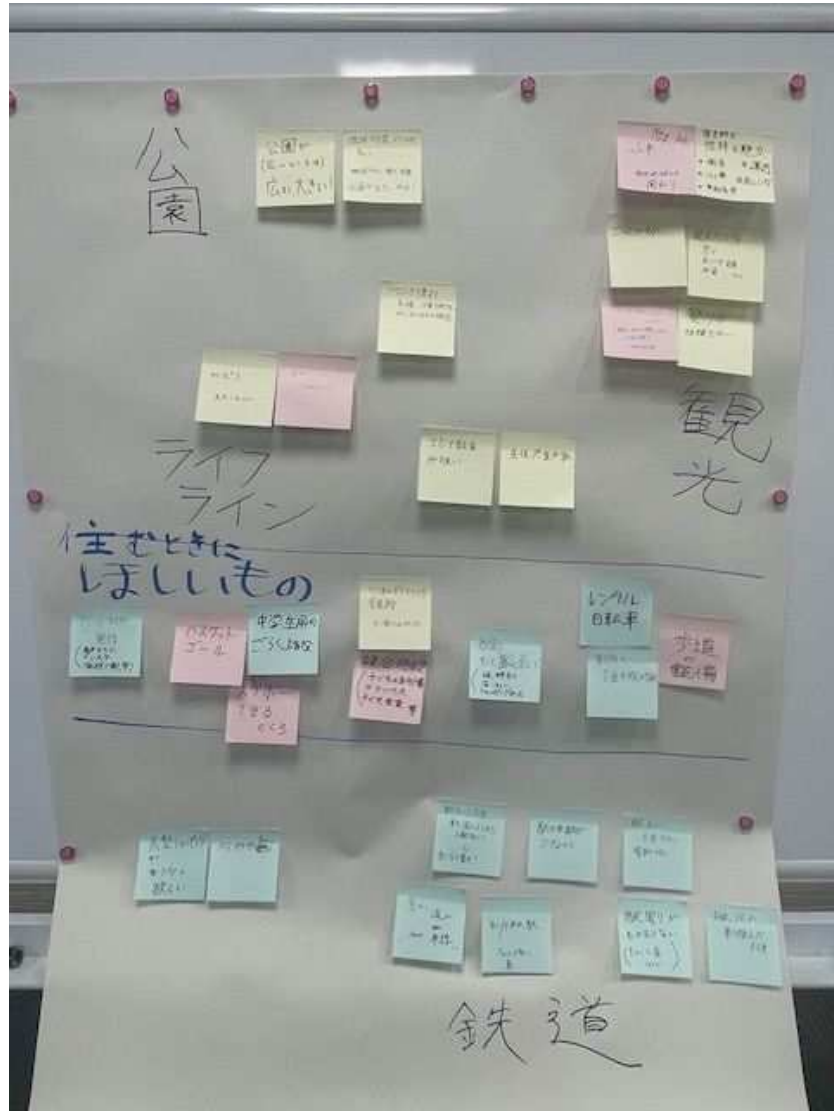
まとめ

両グループからは、半田の魅力や可能性について様々な視点から考えた意見が発表された。学習スペースや公園、娯楽施設などの重要性に関する意見もあり、若者たちの居場所として多様な場が存在し、大きな可能性を秘めていると感じた。行政としては、どのような形でアプローチしていくかが重要である。

これらの意見を踏まえて改めて認識したのは、情報発信の重要性である。イベント情報などが「いつ」「どのようなものがあるのか」といった情報が得られにくいという声があった。いくら良い施策を実施しても、必要な情報が必要な人に届かなければ意味がないと感じた。

これはイベントの開催などの案内に限らず、子育て支援に関する情報や支援についても同様である。適切に情報が届かないと、救える人も救えない状況が発生してしまう可能性がある。情報発信について、年代や属性別にどのような手法で適切に情報発信を行うか、今一度見直す必要があると感じた。若者が望み、必要としていることを実現するための支援や施策の前提としても、情報発信は非常に重要であると認識した。

【第2部】Aグループの意見



【第2部】Bグループの意見

